

山村浩二

受賞教員インタビュー 第8回

「アニメーションの独自性を一貫して追求」
世界的な注目の的となっている」として第三十回川喜多賞を受賞。



Photo by Hiroaki Horiguchi

海外からの影響、海外の評価

受賞の知らせを聞いたとき、本当に自分でいいのかと恐縮しました。これまでの受賞者には映画関係の錚々たる監督、役者さんが多いです。前回、団体として初めて

「山形国際ドキュメンタリー映画祭」が受賞されていて、これまでの社会的認知度が高い方々とは違う視点から自分は選ばれたのだと思います。

川喜多賞は、海外で日本映画を広めた方々が受賞の主な対象かと

理解しています。その点では僕も海外で活動をしてきましたので、その成果を認めていただけたのでしよう。ヨーロッパ、ロシア、カナダといった国々の影響でアニメーションをつくり始め、「マイブリッジの糸」もカナダと日本の共同制作です。それでもやはり僕の作品は日本的であると言われる。それは題材よりも、絵の奥行きやナラティブの方法、編集なども含めた映像言語としての語り方に違いが感じられるからだと思っています。

「マイブリッジの糸」はこれまでの作品のなかで最もプライベートな作品だと思っています。個人的な経験と感覚を前面に出しつつ、映像史や芸術史とうまくリンクできないかと考えてつくりました。

第27号 目次

02 受賞教員インタビュー 第8回

山村浩二

04 seidai gallery vol.7

06 深井隆 月の庭星が降りた日

06 教員は語る 第19回

露木雅弥×榎井省志

09 受賞学生インタビュー 第10回

永田康祐 務川慧悟 大門光

12 TOPICS

映旬 美旬 音旬

20 卒業生に聞く。 第6回

渋谷慶一郎

22 研究室探訪 第6回

美術学部先端芸術表現科・大学院美術研究科先端芸術表現専攻

24 上野の寄り道 散歩道 第8回

登録有形文化財

26 上野の杜の波瀾万丈 第16回

作品展示施設の昔

吉田千鶴子

28 展覧会&演奏会情報

興福寺創建1300年記念 国宝興福寺仏頭展／藝大プロジェクト2013

「消える昭和」その時、世界は？」シリーズ

30 NEWS 2013.02 ~ 2013.07

編集後記

新しい段階へのステップは踏めたと
自覚していますので、ここからまた
違うことを探っていきたいと思って
います。

自分の意識としてはやはり作家
活動が中心で、教育はそれに付随
するものだと思います。僕が作
家をやめてしまったら、教員として
の価値もなくなる。僕自身、先人
の背中を見て、多くを学んできま
したから。

疑いを持つという行為

アニメーション専攻はこの五年



「マイブリッジの系 Blu-ray」販売元: 紀伊國屋書店
©2011 National Film Board of Canada / NHK / Polygon Pictures

間手探りでやってきましたけれど
も、学生たちが精力的に創作に向
かってくれたおかげで、二年目には
オタワとザグレブの国際映画祭で
学校賞をいただきました。また毎
年、学生作品が国際的な賞を年
に何回かは受賞していますから、
存在を認知され、礎ができてき
た。だからこれからのアニメーシ
ン専攻は、次の段階に向かってい
くことになるでしょう。

一年次に必修の座学の講義を受
け持っているのですが、そこでは知
識を一方的に話すというより、疑い
を持つようなきっかけを与えて、

「なぜつくるのか」ということに覚
醒してもらいたいと考えています。
「疑いを持つ」ことは、作家がなに
かを創造していくにあたってとて
も重要だと思っています。分からない
から作家はものをつくるのです。

実際にいま芸術やものづくりの
価値観は多様になりすぎていて、
どこによりどころを持てばいいの
か誰しもが分からない状態だと思
うのです。そういうなかで、スケ
ールの大きなクリエイターが見当た
らない。ある特化した部分ではす
ぐれているのだけれども、分野を
横断するような、創作物としての
広がりがない。

学ぶということというと、これま
での価値を一度崩して、これでいい
のかというところから出発する必
要があります。その考えるメソッド
が自分のなかにできれば、どのよう
な状況にも対応していけるし、次の
手段なり考えを持つことができる。
映像というのはやはりアクティ
ブなものであり、美術館におさ
まって鑑賞されるものではありません。
見ているその瞬間になにかが
活性化していく。アニメーションの
力はそういうところにあると思っ
のです。

藝大通信

No.27

TOKYO GEIDAI

東京藝術大学広報誌

藝大通信 第27号

編集発行

東京藝術大学 藝大通信編集部

編集委員

松下記 (美術学部デザイン科准教授・編集長)

八谷和彦 (美術学部先端芸術表現科准教授)

吉田浩之 (音楽学部音楽科教授)

鈴木純明 (音楽学部作曲科准教授)

磯見俊裕 (大学院映像研究科映画専攻教授)

大石 泰 (演奏芸術センター准教授)

アートディレクター

松下記

表紙デザイン

松下記

表紙撮影

堀口宏明

撮影

堀口宏明

永井文仁・塚田史子 (美術学部附属写真センター)

制作

株式会社 平凡社

発行日

平成二十五年九月六日

お問い合わせ先

東京藝術大学総務課

〒100-8704 東京都台東区上野公園12-18

電話 〇五〇五五二五二〇二六

FAX 〇三五六八五七七六〇

E-mail: toiwase@ml.geidai.ac.jp

URL: <http://www.geidai.ac.jp/>

山村浩二(やまむらこうじ)

教授—大学院映像研究科アニメーション専攻

一九六四年生まれ。東京造形大学卒業。二〇〇二年「頭山」がア
ニメーション映画祭で六つのグランプリを受賞。二〇〇年文化庁・文化交流使としてカナ
ダで活動。二〇〇二年カナダ国立映画制作庁との共同制作で「マイブ
リッジの系」が完成。二〇二二年に日本映画の芸術文化の発展に基
大なる功績を残した個人または団体、映画を通じての国際交流
に顕著な功績を残した個人または団体、映画を通じての国際交流
を受賞。日本アニメーション協会副会長、ACOM日本支部理事、ヤマ
ムラアニメーション有限公司代表取締役、比治山大学短期大学部
客員教授、東京造形大学客員教授。二〇〇八年より東京藝術大
学大学院映像研究科アニメーション専攻教授。
<http://www.yamamura-animation.jp/>